

Title	向井健教授略歴・主要業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1996
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.69, No.1 (1996. 1) ,p.555- 561
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	向井健教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19960128-0555

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

向井 健教授 略歴

学歴

昭和六年三月十七日 出生

昭和二四年 四月 慶應義塾大学法学部法律学科入学

昭和二八年 三月 同大学卒業

昭和二八年 四月 慶應義塾大学大学院法学研究科（民事法学専攻）修士課程入学

昭和三〇年 三月 同大学院修士課程修了

職歴・学会活動・その他

昭和三〇年 四月 慶應義塾大学法学部副手

昭和三五年 四月 慶應義塾大学法学部専任講師

昭和四七年 四月 慶應義塾大学法学部助教授

昭和四九年 四月 一橋大学法学部非常勤講師（二年間）

昭和五〇年 四月 青山学院大学法学部非常勤講師（現在に至る）

昭和五二年 四月 東京大学社会科学研究所非常勤講師（一年間）

昭和五三年 四月 早稲田大学法学部・同大学院法学研究科非常勤講師（現在に至る）

昭和五八年 一月 大阪大学より法学博士の学位受領（第六二八五号）

昭和五九年 四月 法制史学会理事（現在に至る）

昭和六一年四月 慶應義塾大学法学部教授

昭和六三年一〇月 日本学術会議基礎法学研究連絡委員会幹事（六年間）

平成元年六月 第一東京弁護士会資格審査会委員（二年間）

平成四年四月 法制史学会代表理事

平成六年五月 慶應義塾生活協同組合理事長（現在に至る）

なお、慶應義塾大学法学部・同大学大学院法学研究科関係として、『法学研究』編集委員会委員長（現在に至る）・『法学政治学論究』編集委員会委員長・図書委員長・常任委員会委員・人事委員会委員などを歴任、さらに同大学通信教育部副部長として前後四期八年間その任にあった。

向井 健 教授 主要業績

一 著 書

『法学新講』（共著）

慶應通信 昭和四二年

二 論 說

『民法口授』小考

「明治初年における民事訴訟法典の編纂」

「戦後における明治家族法史研究の問題点」（共作）

「明治前期における民法典編纂の経過と問題点」（共作）

「原嘉道」「青木徹二」

「会社法草案の編纂始期」

「民事訴訟法典編纂史点描」

「ポアンナードの自然法論」

「梅謙次郎」

「明治初年の相続法」

「岸本辰雄とその婚姻法論」

「ポアンナードの身分法思想」

『《フスケ案》小論』

『慶應義塾創立一〇〇年記念論文集・法学部法律学関係編』

『綜合法学』六卷八号

『法制史研究』一三三号

『法典編纂史の基本的諸問題』

『日本の弁護士』

『法制史研究』一二二号

『歴史教育』一八卷八号

『法律時報』四五卷七号

『日本の法学者』

『講座家族』五卷

『婚姻法の研究』（上巻）

『家族——政策と法——』七卷

『法学新報』八三卷一〇一一—一二合併号

「明治八年・ボアソナード《憲法論》小考」

「岸本辰雄とその自然法論」

「明法寮民法草案編纂過程の一考察」

「民法典の編纂」

「明治八年・ボアソナード《憲法論》再論」

「新たななる民法人事編草案」

「民事訴訟法典編纂の先達たち」

「明治八年・ボアソナード《政權分界論》覚え書」

三 資料

「明治前期における養子論」

「明治九年の養子論争と植木枝盛」

「黙阿彌の《散切物》に見えたる明治初年の法制」

「江藤主催司法省民法会議における相続論争」

「ボアソナードの《家督相続見込》について」

「明治一五年《戸籍規則》の原案」

「新たななる身上証書法律案」

「『新たななる身上証書法律案』補考」

「片山国嘉博士の《親子ノ分限》論について」

「司法省御雇外人ブスケと商法講義」

「明治一四年《会社条例》草案とその周辺」

「大審院の創設とボアソナード意見書」

『一橋論叢』七八巻四号

『一橋論叢』八〇巻三号

『早稲田法学』五七巻三号

『日本近代法体制の形成』（下巻）

『日本近代国家の法構造』

『法学研究』五八巻七号

『ジュリスト』九七一号

『慶應義塾創立二二五年記念論文集・法学部法律学関係編』

『法学研究』二九巻五号

『法学研究』二九巻七号

『法学研究』三一巻四号、五号、六号

『法学研究』三二巻四号

『法学研究』三二巻五号

『法学研究』三二巻七号

『法学研究』三三巻一〇号

『法学研究』三三巻一二号

『法学研究』三三巻八号

『法学研究』三四巻一号

『法学研究』三四巻二号

『法学研究』三四巻六号

- 「明治八年・内務省《会社条例》草案」
「岸本辰雄とその商法編纂論」
「明治十二年・民法人事編草案」
「明治二十一年四月二六日のポアソナード演説」(共作)
『憲法備考』(共作)
「村田本《治罪法直訳》」(共作)
「村田本《治罪法草案審査第二読会修正趣意書》」(共作)
- 四 小論・その他
- 「義塾法律科の創設者・ウィグモア博士のことども」
「神戸寅次郎博士を想う」
「埋れた恩人・松下直美のことども」
「縁切寺」
「言論の自由を守った義塾の先達」
「明治初期の法典編纂」
「学界回顧——日本法制史——」
「学界回顧——日本法制史——」
「福沢諭吉の法思想」
「日本近代法史」
「学界回顧——日本法制史——」
「明治民法はどのような理念でつくられたか」
「判例研究」の先駆・梅謙次郎」

- 『法学研究』四四卷九号
『法学研究』五〇卷九号
『法学研究』五八卷一二号
『法律時報』六四卷一四号
『法学研究』六七卷一四号
『法学研究』六八卷九号
『法学研究』六九卷三二号(予定)
- 『三田評論』昭和三五年二月号
『三色旗』昭和三五年六月号
『綜合法学』六卷一四号
『綜合法学』六卷一二号
『三田評論』昭和四〇年八月号
『歴史教育』一二卷一四号
『法律時報』四三卷一五号
『法律時報』四四卷一四号
『三色旗』昭和四六年六月号
『現代法學事典』三卷
『法律時報』四五卷一五号
『日本歴史の視点』四卷
『三色旗』昭和四九年一月号

- 「学界回顧——日本法制史——」
- 「法学関係の基礎文献」
- 「法制史——法律学への招待——」
- 「明治民法・商法」「産業組合法」「農会法」
- 「慶應義塾大学法学部史」（共作）
- 「西周」「津田真道」「加藤弘之」「梅謙次郎」「穂積八束」「末弘嚴太郎」
- 「法制史に関する基本文献」
- 《「性法論」点描》
- 「民法典論争にみる近代化の過程」
- 「民法典論争九〇周年」
- 「旧民法・民法典論争・明治民法」
- 「明治憲法体制の成立」
- 「小説と庶民のなかの〈生きた法〉」
- 「明治・大正期の著名弁護士」
- 「近世・近代日本の家族」
- 「内閣制度の成立」
- 「教育勅語と明治国家体制の進路」
- 「東京法制史散歩」
- 「林毅陸先生の陪審制度観」
- 《「陪審裁判」覚え書》
- 「民法典編纂と梅謙次郎」
- 「明治前期の民法編纂」

- 『法律時報』四六卷一四号
- 『三色旗』昭和四九年二月号、同五〇年四月号
- 『法学セミナー』昭和五〇年四月・臨時増刊号
- 『日本資本主義発達史の基礎知識』
- 『慶應義塾一〇〇年史・別巻・大学編』
- 『現代日本の法思想』
- 『三色旗』昭和五一年一月号
- 『三色旗』昭和五二年八月号
- 『三色旗』昭和五三年一月号
- 『法律時報』五一卷九号
- 『受験の日本史』昭和五四年一月号
- 『三色旗』昭和五五年一月号
- 『法学セミナー』昭和五七年一月号
- 『現代の弁護士』（司法編）
- 『家族の社会学』（現代のエスプリ別冊）
- 『受験の日本史』昭和六一年一月号
- 『受験の日本史』昭和六二年一月号
- 『法学入門87』（法学セミナー増刊）
- 『三田評論』昭和六三年一月号
- 『三色旗』平成元年六月号
- 『わが民法の父・梅謙次郎博士顕彰碑建立の記録』
- 『日本近代法一一〇講』

『裁判関係資料永久保存の今日的意義』

『御牢内の話』（天保五年）（共作）

『憲法備考』

『法律時報』六五卷一三〇号

『三田評論』平成五年三月号

『三田評論』平成六年六月号

五 「今月の法律家」

『法学セミナー』昭和五五年二月号～同五八年四月号に連載。

登場した人物は左のとおりである。

児島惟謙・春木一郎・ウイグモア・薩埵正邦・津田真道・鶴田晴・横田国臣・仁保亀松・尾佐竹猛・田部芳・岸本辰雄・手塚太郎・西周・千賀鶴太郎・穂積陳重・三好退蔵・岸小三郎・高根義人・中川孝太郎・宮崎道三郎・仁井田益太郎・小倉久・飯田宏作・毛戸勝元・山田喜之助・ジョルジュブスケ・石坂音四郎・岡田朝太郎・三浦周行・箕作麟祥・奥田義人・富井政章・青木徹二・穂積八束・花井卓蔵・磯部四郎・原嘉道・川名兼四郎・岸清一

六 「法制史風土記」

『法学セミナー』昭和五八年五月号～同六〇年四月号に連載。

登場した遺跡などは左のとおりである。

東慶寺・ポアソナードの墓・△二六聖人殉教〉碑・小伝馬町牢屋・〈吉田松陰先生終焉の地〉碑・〈指紋研究発祥の地〉碑・旧東海道品川宿・鈴ヶ森刑場跡・海蔵寺・ヘーン警察大尉表功碑・巢鴨ブリズン跡・江戸北町奉行所跡・西陣・陪審法廷・京都六角牢屋敷跡・京都二条陣屋・京都高瀬川・京都所司代屋敷跡・小塚原刑場跡・淨閑寺・〈四谷大木戸跡〉碑・内藤新宿太宗寺・GHQ・〈慶應義塾発祥の地〉碑

辞典・事典（たとえば『国史大辞典』・『新潮日本人名辞典』・『新法学辞典』・『事典・家族』など）への寄稿、随筆・随想・座談会および書評・論評などは全て割愛した。